地域資源を表現した色を楽しもう「かわさき色ものがたり」

かわさき色ものがたりは、20 色の『かわさき折り紙』を使った活動をしている団体です。平成 25(2013)年に誕生した『かわさき折り紙』は、多摩川の水色、禅寺丸の柿色、川崎大師・だるまの緋色など、20 色すべてが川崎の資源に由来したオリジナル色です。市民活動団体が企画し、かわさきマイスターの印刷技能士さんがいる高津区の印刷会社で印刷されています。

マスからパーソナルへ

この『かわさき折り紙』を使って、平成 26(2014)年から令和元(2019)年には、「かわさき色輪っかつなぎ」というイベントが行われました。こども文化センターやわくわくプラザなど、市内のさまざまな場所で『かわさき折り紙』を裁断して短冊状にしたものを輪っかにしてつなぎ集めて、宿河原堰横の多摩川河川敷にビッグアートを描くという、スケールの大きなイベントです。多摩川河川敷を彩るビックアートは美しく見事なものでしたが、5 年続く中で、天候に左右されること、色輪っかにつなぐことが単に作業になってきていたなどの問題を抱え、コンセプトを見直すために令和元(2019)年で活動を休止しました。

コロナ禍の令和 3(2021)年、「川崎の資源を表現した 20 色の折り紙、これで終わりではもったいない。これを使って何かできないか」と、アート作品づくりを子どもたちに指導してきたメンバーのアイデアを中心に、ビッグアートのような規模の大きなものではなく、20 の色を使って一人ひとりが思い思いに作った作品を持ち帰るという、よりパーソナルな形でやってみようと方向転換しました。川崎をイメージした『かわさき折り紙』を通して、市民それぞれが「ものがたり」を創り出し、人と人をつなぎ、川崎を愉しんでいくことを活動目的としました。活動テーマは「かわさき色あそび」です。5 月 21 日の生田緑地ピクニックラリーに参加し、この時から“20 の資源の色を使って、自分でいろいろな物語を描きましょう”と**かわさき色ものがたり**が歩み出しました。現在は 7 人で活動しています。

それぞれの物語をそれぞれの色で

今は主に多摩区の子育てまつりやこども文化センターなどの講座に参加して、うちわやカード、冠、ペンダントなどを作る体験をしてもらいます。メンバーの有北郁子さんが作品の企画をし、準備し、あとは20色の中から好きな色を選び形を考え作ってもらいます。「私の名前は瑠璃だから」と「ルリビタキの瑠璃色」を使ったり、自分なりに色を解釈して、そこで物語を創っていく子どもたちの様子を見ているのはとても楽しいとのこと。時間制限することなくゆったりと、自由に好きなだけ楽しんでもらうこの体験は、「無心に楽しめる」と、子どもだけでなく大人にも好評なのだそうです。

20 の色を大切につないでいきたい

イベント時には、地域活動に関心がある学生さんが手伝いに来てくれることもあります。「無理なく続けること」を念頭に、その時々に運営できるメンバーで活動しているとのことです。

「作品づくりをゆっくり楽しんでもらっておうちに持ち帰ることで、一緒に来られなかった人とその話をしたり、作ってきたはがきやカードを誰かに出したり。それぞれのつながりの中でまた楽しい時間を過ごしてもらえるツールになれば嬉しいです。子どもたちの発想にも毎回驚かされます」と代表の清水さん。よそにはない、とても良い色で、どの色と組み合わせてもすごく調和がとれると評判の 20 色。もっと多くの方に知ってもらい、この 20 の色を大切につないでいきたいという**かわさき色ものがたり**の思いは続いていきます。

■かわさき色ものがたり
代表　清水　まゆみ
メールアドレス　BZA06517@nifty.com

インスタグラム